グループホーム主任　山本一等

(施設の運営状況について)

・若葉ハウス(女性)　定員　５人　利用者５人満床　　　　　延べ利用日数１３３１日

1人当たりの年間平均利用日数約266日(在宅支援含む)

・秋篠ハウス(男性)　定員　５人　利用者４人　　　　　　　　延べ利用日数1009日

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　1人当たりの年間平均利用日数約252日(在宅支援含む)

・高山ハウス(女性)　定員　６人　利用者６人満床　　　　　延べ利用日数1795日

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　1人当たりの年間平均利用日数約299日(在宅支援含む)

　管理者兼施設長の育児休暇に伴い、新たに主任を配置し支援の継続に取り組んだ。

８月頃からコロナが感染拡大し、グループホーム３事業所でもメンバー、支援者共に初の感染者や濃厚接触者が発生した。施設長が不在の中でのコロナ対応となったが、統括施設長に判断を仰ぎ、グループホームの閉鎖や利用者の帰宅、自宅に帰ることが出来ないメンバーは、他のメンバーから隔離するなどの対応を実施した。

　宿泊のキャンセル・自粛のメンバーに関してはこれまでと同様、ご家庭への電話連絡を行い、ご自宅での様子を聞き、在宅支援での対応となった。

　世話人・生活支援員の方も「自分が感染するかもしれない」という不安や恐怖と葛藤しながらも、検温や消毒などの感染予防に努め、メンバーに感染の疑いがある場合には防護服を着用して勤務を続けてくれた。

　１0月には高山ハウスを利用していたメンバー１人が、一人暮らしを始めるため退所された。寂しさから落ち込むメンバーもいたが、統括施設長・相談支援員・グループホーム主任・グループホームスタッフで話を聞き対応した。翌月には高山ハウスに新規利用者が体験入居されるにあたり、事前のスタッフミーティングの中で、新規メンバーに関しての情報共有を行った。

　年末には再びコロナが感染拡大し、施設やグループホームの閉鎖、宿泊キャンセル、自粛が相次いだ。ご家庭、メンバーの就労先や相談支援員、グループホームスタッフとも連携を図り、早めに行動することで感染拡大を防ぐことが出来た。また、これまで「恐怖」だった未知のコロナウイルスだが、次第に職員、メンバーの中でも「またか」「いつになったら収束するんだ」という気持ちの変化も見られた。世間でも徐々に「with コロナ」という考えが広まり、規制や禁止が緩和され始めた。グループホームとしても、感染予防に取り組みつつ近畿圏内への外出を許可し、メンバーのストレス軽減を図った。

●今年度はグループホームでもコロナの感染が何度かあり、メンバー、ご家族、スタッフ(世話人・生活支援員)それぞれ大変な状況であった。そんな中でも感染拡大を防ぎ、支援の提供を継続できたのはチームとして対応できた結果だと思う。さらに来年度は高山ハウス、秋篠ハウスに常勤スタッフを配置し、グループホームスタッフの中でもリーダー的な立ち位置として、支援の提供や連携する機関との情報共有をしていきたいと考える。